

1 主題名 あいてによりそって B- (6) 親切、思いやり

2 教材名 「六べえじいとちよ」(東京書籍「新しいどうとく3」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領の内容項目B- (6)「親切、思いやり」を受けて設定したものである。第3学年及び第4学年では、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」をねらいとしている。中学年の段階では、学校生活を中心として、徐々に活動範囲が広がり、様々な人との関わりも増えていく。相手の気持ちを察したり、より深く理解したりすることができるようになる一方で、自分とは違う考え方や感じ方を汲み取ることができず、自分本位の思いを押しつけてしまうこともある。

相手の気持ちや置かれている状況などを自分のこととして想像し、親切な行為を自ら進んで行うことができる態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い

実態調査(実施日 令和5年*月*日*人)

1 あなたは、いつも人に親切にしていると思いますか。
そう思う *人 だいたいそう思う *人 あまりそう思わない *人 まったくそう思わない *人
2 それは、どんなことですか。(自由記述)
<誰に> ・友達 *人 ・家族 *人 ・年下の子 *人 ・先生 *人 ・思い出せない *人 <どんな親切> ・手伝いをした *人 ・優しくしてあげた *人 ・落とし物を拾ってあげた *人 ・荷物を持ってあげた *人 ・物を貸してあげた *人 ・足が痛いときにおんぶしてあげた *人 ・一緒に遊んであげた *人 ・思い出せない *人 <なぜ親切にしようと思ったか> ・親切にすると気持ちがよいから *人 ・かわいそうだったから *人 ・相手も優しくしてくれたから *人 ・友達が困っていたから *人 ・「ありがとう」と言ってもらえるから *人 ・親切にするとよいことがあるから *人 ・大変そうだったから *人 ・人のためだから *人

実態調査の結果から、本学級では約*割の児童が、普段から人に親切にしようという気持ちをもっていることが分かった。親切にしている相手は、「友達」や「家族」が多く、児童にとって身近な人にとどまっていた。また、目に見える手助けを親切と捉えている児童が多く、相手の気持ちや置かれている状況に目を向け、どういう行動を取ることが親切になるのかと考えて行動するには至っていないことが分かった。

そこで、身近な人だけでなく、より多様な人に目を向け、相手の気持ちを尊重して親切な行為を行うことが大切であるということに気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は、ひとりぼっちの六べえじいが、主人公ちよの温かい心に触れ、孤独な心を少しずつ解きほぐしていくという話である。村人と口をきかず、いつも暗い顔をしている六べえじいのことを思い、六べえじいの家に毎日、ふかし芋や煮物などを届けるちよ。ちよの相手を思いやる温かい親切とちよだけでなく村人にも心を開くようになった六べえじいの変容を通して、相手を思いやる心のすばらしさに気付き、相手の気持ちに寄り添った親切な行為を自ら進んで行おうとする態度を育てたい。

(4) 指導観

事前指導として、親切に関する生活経験やそれに伴う感じ方、考え方を「心のポケット」に書きためておく。導入では、「心のポケット」に書きためてきた親切に関する内容を見ながら、自分が今もっている道徳的価値に関する感じ方や考え方を捉えることができるようにする。教材を読む際には、自分の思う親切と比べながら読むことで疑問、矛盾、驚き等の問題意識がもてるようにする。さらに、「ちよに聞いてみたいことは何だろう。」という発問をすることで、問題意識を一人一人の学習問題として表現できるようにする。展開では、児童から出された学習問題を基本発問として取り上げ、児童の問題意識を生かした授業展開とする。また振り返りの場面では、二段階に分けた振り返りを行う。まず、自分の学習問題について振り返り、教材で考えた親切の意義を自分との関わりで整理する。次に、教材で考えた道徳的価値観を自分のこれまでの道徳的価値観と比べて振り返りを行い、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

4 本時の活動

(1) ねらい

六べえじいを思い、温かい心で親切な行動をしたとちよの姿とそれに応えた六べえじいの姿を通して、相手のことを思いやり、自ら進んで親切にしようとする道徳的態度を育てる。

(2) 準備、資料

「心のポケット」、ワークシート、場面絵

(3) 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点、評価
導 入	1 「心のポケット」を見ながら、親切について考える。 ○わたしの思う親切とは、何だろう。	・困っている人を助けること。 ・人にやさしくすること。 ・相手が喜んでくれること。	・「心のポケット」を見ながら、今もっている自分の道徳的価値に関する感じ方、考え方を捉えることができるようにする。
展 開	2 教材「六べえじいとちよ」を読んで、親切について考える。 (1) 教材を読んで感じたことを整理し、自分の学習問題をつくる。 ○自分の思う親切と比べ、ちよに聞いてみたいことを考えながら読もう。	・六べえじいに親切にしたのはどうして。 ・六べえじいに喜んでもらえないのに、親切を続けられたのはどうして。	・自分の捉えた親切と比較しながら教材を読むよう投げかけ、疑問、矛盾、驚き等の問題意識を明確にできるようにする。 ・見いだした問題を、「登場人物に聞いてみたいこと」という視点で表現することで、学習問題づくりへとつなげられるようにする。

	(2) 教材について話し合う。 ○ちよはどうして六べえじいに食べ物をあげようと思ったのだろう。 ○どうしてちよは、毎日六べえじいの家に通い続けたのだろう。 ○どうしてちよは、六べえじいに声をかけなかったのだろう。 ◎ちよが六べえじいを思っていた親切では、ちよの気持ちはどこにあるだろう。	・六べえじいはひとりぼっちでかわいそう。 ・六べえじいに喜んでほしい。 ・六べえじいのために何かしてあげたい。 ・六べえじいが喜んでくれるとうれしいな。 ・六べえじいが話したくなるまで待とうと思った。 ・六べえじいのことを考えていたからすぐ隣にあった。 ・ちよは六べえじいのことをたくさん考えて、少しずつ近づいていった。	・親切の動機となった六べえじいを心配する気持ちや喜ばせたいという気持ちにも目を向け、相手を思いやることの大切さに気付けるようにする。 ・ちよの親切と自分の捉えた親切を比較し、共通点や相違点を見付けることで、自分との関わりで考えられるようにする。 ・ちよと六べえじいの気持ちの距離を考えることで、友達との感じ方、考え方の違いに気付き、親切について多様な視点で捉えることができるようにする。
	(3) 自分の学習問題について振り返り、自分の考えをまとめる。 ○自分の学習問題の答えをまとめよう。	・ちよは、六べえじいのことを喜ばせたくて、親切を続けた。相手のことを考えた親切は、相手にちゃんと届くんだな。	・導入で捉えた親切と教材を基に友達と対話をして考えてきた親切を、自分の学習問題と関連付けて振り返ることで、親切に対する見方や考え方を広げたり深めたりできるようにする。
終末	3 今日の学習を振り返る。 ○今日の学習で、新しく分かったことや今までの自分と比べて考えたこと、これから大切にしたいことは何だろう。	・相手の気持ちを自分の気持ちと同じように考えて、親切ができるといいな。 ・今まで親切にしてもらってうれしかったのは、相手が自分のことを考えてくれていたからなんだ。	・今日の学習を振り返り、相手の気持ちに寄り添った親切な行為をすることについて考えを深めることができるようにする。 相手のことを思いやり、相手の気持ちに寄り添った親切な行為を自ら進んで行おうとしている。(ワークシート)